

議長（山本 陽一郎君） 次に11番、伊藤守一議員。

11番（伊藤 守一君） 本定例会におきまして、大きく1つ目、地方分権改革について、2つ目、エコ補助金について、3つ目、地域福祉計画についてを質問させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは1点目でございますけども、地方分権改革についてですけど、新聞報道、7月29日なんですけど、県におきまして、市町村会の総会に町長が会長ということで出ておられますけども、野呂知事のあいさつの中で、厳しい財政でも、もがき苦しみ、大変苦労していると。あらゆるところにひずみがあるというあいさつがございましたけど、その内容について、東員町についても財政の面、それからあらゆるところにひずみがあるのか、県と同じなのかというのを伺いますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 伊藤守一議員の地方分権改革についてのご質問にお答えをいたします。

東員町における財政と行政におけるひずみは、とのことですが、国は昨年の政権交代の後、「地方分権改革」を内閣の1丁目1番地の改革として進められてきました。

本年6月には「地域主権戦略大綱」が閣議決定され、その中で「ひも付き補助金」にかわって地方が自由に使える「一括交付金の創設」が盛り込まれました。この一括交付金の創設に当たりましては、全国町村会を通して、総額で、これまでの国庫補助負担金と同額を確保することや、自治体間の格差調整の機能を負わせないように、などの意見を提出してまいったところでございます。

その後、本年7月参議院選挙により、いわゆる「ねじれ国会」の状態となり、現在国の平成23年度の予算編成の動向に注視いたしているところでございます。

このような情勢の中で考えてみますと、昨年の町村週報に、北海道大学の佐藤誠教授が「今回の世界経済の危機は景気の問題ではなく、歴史的な経済・産業・暮らしの抜本的な大変革の問題として受けとめる必要がある。巨視的に、近代以降の爆発的な産業発展が終わりまして、雇用や所得の成長が止まる定常社会の到来と認識すべきであると述べられております。これからは貨幣数量のリッチネス追及から、健康で美しい暮らしのウエルネスを実現することが中心課題となる」と述べられたことを思い返していただいております。

財政と行政におけるひずみという感覚は、こうした大きな経済・産業・暮らしの変革から生じていると受けとめるべきではないかと考えているところでございます。

いずれにいたしましても、このような大きな感覚を持ちながら、国の地方分権改革、新年度の予算編成状況に的確に対応してまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 質問要旨の中身が短いので申しわけないのですが、4月30日の新聞の中で、裁量権も持てない、行政裁量ということが入っておりますけども、これも考えてみますと、奥へ入っていくと、僕も勉強不足なんですけども、自由裁量、法定裁量とか、いろんなことが出てきますけど、これは県市町に決定権がないということで理解してよろしいのですか。伺いますので、よろしくお願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） お答えをさせていただきます。

裁量権がないということは、基本的にはそういうことだと思います。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 当初の町長の説明で、県と東員町はどういうひずみがあるのかというのは、私、今、町長の回答では理解ができませんでしたけど、町長はいつも催し物のあいさつで、時々、地方分権を進めるとか言ってみえます。しかし、町長の施策を考えてみますと、小中学校の入学金とか定住促進条例等々、別に国の裁量というか、決定権がなくても、町長は施策されていますね。その点を考えると、ひずみもないのと違うかなと私は考えますけども、町長どう思われますか。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 東員町独自というんですか、そういうような政策というんですか、その部分もあると思いますけど、補助金行政というんですか、公共事業等につきましては、補助金が絡んでまいります。どうしても国の言うとおりにしていけないと補助金がもらえない、また会検も入ってくる。そんなことで、なかなか市町が自由に使えないということで、一括交付金という形が入ろうとしておるわけですね。一括交付金であれば、各市町が自分の独自のものをつくっていきけるということで、次の時代はそういうことにといいことで、国は考えておると思います。

ということで、新しいまちづくりは何をやるかも、東員町民の皆さんと議会の皆さんとみんな考えて、何を優先順位にやっていくかということも、一括交付金の中でやっていくというのが分権だと思っております。当然、地域主権まで民主党が言われておりますけど、そんな形で進んでいく予定だったんですけど、ねじれ現象で、なかなかそれもうまくいくのかなというような心配をしておるところでございます。

以上です。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 地域主権戦略大綱で、全国の知事会、地方6団体にございますけども、今後の改革の達成目標や実施スケジュールを原口総務大臣に

提出されております。また、国と地方協議の場の設置などを盛り込んだ地域主権3法案についても菅直人首相に提出するというので、私は今の政権が進むのであるなら、地方分権はもっと進むと思います。

しかし、中日新聞の社説ですけども、町長が一番初めに言われた片山大臣の時は、1丁目1番地とここに載っています。菅さんにかわって地方分権は薄れてきたと、社説に載っておりますけども、今回は本気度が問われるということで、多分、現政権が継続すれば続く内容、進む内容と私は考えております。

今、一括交付金、道路整備や保育所建設ですね、そういうことについて、地方が元気にやっていけばいいと考えておるところでございます。その中で、インターネットで取り寄せた資料ですけど、なるほどなというデメリットの部分、多分15町のうちで東員町も昨日、町長のごあいさつでイオンの問題、Y G テックの増設の問題、企業がよければ10年、20年は地方は持つと思うけど、弱い町については、どんどん差ができてくる、デメリットがあると思いますけど、その辺も町長どう思われますか。

よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） お答えをさせていただきます。

県の町村会の中でも非常に格差があるわけですね。北勢地域はよいというか、中勢・南勢へ向いていったら非常に厳しい状況でございます。私も格差は広がっていく、交付税で、もっときちっとしないと格差は広がっていくと思います。ところが、中勢・南勢に行きますと、面積的には非常に大きいのですので、もう合併はできないですね。どえらいものになりますので。だからその辺をどうしていくのか、非常に厳しいところがあると思います。

県会議員とお話をしておりますと、本当にねじれ現象の国会ですね、自民党は子ども手当についても多分通さない。今、子ども手当というのは1年間の時限立法になっているのです。1万3,000円を、仮に2万6,000円までは無理としても、1万8,000円とか2万円に引き上げる。残りの部分を市町村にお金を渡して、その市町村が独自で何をやるかはサービスの部分ですね、保育園を建てたり、東員町はないんですけど、待機児童をなくしていくというふうなことを言ってますけど、多分通らないと思います。

だからいろいろの面でどんどんと今、代表選挙をやってますけど、私は厳しくなる、どうなっていくのか先が見えない。いろいろなことをバンバン出されてます。特に小沢さんはいろんなことを出されてますけど、そのとおりにはいかないのかなと、通常国会で非常に厳しい時が来るのかなと認識をしておるところでございます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 少しずつ地方分権が進んでくると思いますので、それに対応した町長の今後の施策、私もいつも思ってますけど、人口増をどうするのかという施策について、地方が元気になる施策に取り組んでまいりたいと思いますので、ひとつ一緒に考えていきましょう。

それと地方が元気になるということで、私は議長を通して、元気が出る町としての問題を1点、提起させていただきましたが、質問させてもらってもよろしいですか。

木村議員、さっき質問されましたけども、プールの件でございます。9月1日に議長を通して親御さんが、どうしても子どもがプールと言うので、延ばしてもらえないかという話でございます。私も当初は、9月当初から子どもが学校へ行かれるので、ちょっと我慢してもらえないかなと思ったら、余りにも要望が多いということと、子どもが喜ばれるということで、議長を通してお願いしたんですけども、教育長の回答があったように、検討の結果、と言われても、議長からは行政官庁の申請がどうのこうのと聞いたんですけども、どこまで検討されたのか。本当に行政官庁の窓口まで行ってお願いされたのかというのを、ひとつお聞きしたいんですけど、教育長、よろしくお願いします。

議長（山本 陽一郎君） この件につきましては、石垣教育委員会事務局長を通じて、教育長にお伝えをさせていただきますので、お答えをいただきたいと思っております。

岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 伊藤議員のご質問にお答えをいたします。

行政官庁に聞く、そこまではしておりません。私ども担当課で、どれだけの人員が必要なのか、その人員が実際に確保できるのかどうかというところの検討をさせていただきます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） そういうことであれば、実際ちょっと残念やなという気はします。それと教育長の言われた、参考にさせていただくというのは、言葉自体、来期からは大手のプールと合わさせてもらいますというふうに訂正したらいかがかと思いますが、どうでしょう。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 今のご意見、もう一度、すみません、言っていただきたいと思っておりますけれども。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 来期のプールのオープン時期ですね、天候によって検討させていただいたと言われましたね。それを大手のプールと同じ時期にオープンいたしますという内容に訂正したらいかがですかと申し上げましたけど。

議長(山本 陽一郎君) 岡野教育長。

教育長(岡野 譲治君) 大手のプールはちょっとわかりませんが、先ほど私がお答えさせていただきましたのは、今年のプールは9月1日まででした。それを来年度、もう少し延ばせることができないのであろうかということの検討をさせていただきたいということをお答えをさせていただきましたので、そのようにいきたいなと思っております。

議長(山本 陽一郎君) 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 新聞報道で、113年で一番暑い夏という資料が、9月2日ですか、出ましたけども、過去10年ぐらいになりますか、30を上回っているというのは大体データ的に出てますので、その辺もじっくり検討していただきたいと思います。検討といいますか、明確にご返答をよろしくお願い申し上げます。

議長(山本 陽一郎君) 岡野教育長。

教育長(岡野 譲治君) 今、何日から何日までということは、この場では返答はできませんけれども、前向きに検討させていただきたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 前向きによろしくお願い申し上げます。

それでは次のエコ補助金についてですけど、国のエコカー補助金が9月末で終了になりますということで、要旨には書いたんですけども、今日時点で多分終わると思います。それとエコ家電が12月末までの予定ということで、今日の新聞報道ではエコ住宅が1年延びたという決定報告が出ております。

特にいろいろ考えて、町独自でエコ関係の補助金に助成できないかという、短い要旨でございましたけども、あれもこれもばらまきということで、住宅促進と小学生入学の関係で6,400万円と思いましたが、そういうのも考慮して、いろんな資料を見ておまして、単独でやる、安城市でございますけども、これはまた特殊な事情がございまして、デンソー、アイシン、みえますので、そこらでは独自施策を持ってみえるけど、やっぱり少し違うなと思っておりますし、私はいろんな資料を見て、エコ住宅について検討していただいたらどうかなという質問をさせていただきますので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) エコ補助金についてのご質問に、お答えをさせていただきます。

エコ補助金につきましては、自動車とか家電、先ほどの住宅の関係、いろいろ出てきております。自動車につきましては、愛知県はトヨタの関係で、各市町が補助をしております。そんなことございますけど、東員町の場合は、なかなか財政的にも厳しいということで、補助はしておりませんし、将来的にも少し厳しいかなと思っております。

先ほどの住宅ですね、若者の定住促進条例、転入していただいて、家を建てていただいた方には補助をさせてもらうという制度をご承認いただきました。そんなことで動いておりますけど、今、原課の財政課のほうに指示をさせていただいておるのは、せっかく住宅政策をやっておるのだから、家を建てていただいた方に太陽光とか、またそのほかの深夜電力の関係の設備もございますので、財政的にも厳しいのは私もよく承知はしておりますけど、いろいろのやり繰りをしながら、何とか補助制度ができないかということは、検討しろという指示はさせていただいておるところでございます。

そんなことで、いろいろ来年度予算に向けて議論を重ねていきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたく思います。

住宅政策は経済にもいろいろの分野でかかわってくると思っておりますので、そんな方向をできるように頑張ってみますので、よろしくお願いをしたいと思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 今の町長の回答で、検討させてもらいますということで、多分採用されるのかなと思います。参考に一番いいのは川越町ですね。よその市町村のことは余り普段は言いたくないんですけど、川越町が1件で18万円というような、インターネットで資料は幾らでもそろいますので、参考にさせていただいたらいいと思いますけど、今、住宅促進というのも、私は私なりに11日は大阪の大会、18日は名古屋、25日は桑名の大会で、またPRをさせていただきますので、もしできるのだったらいつ提案されるのか。12月に提案されて、さかのぼって4月からがいいのかどうかというのも伺いますので、検討段階でよろしいので、ひとつよろしくお願いしたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤町長。

町長（佐藤 均君） お答えをさせていただきます。

いろいろの方面を検討させていただくということでございますので、ご理解をいただきたく思います。エコの関係は、学校に太陽光をとというような指示もしておりますので、財政的に非常に厳しい時でございますので、いつというようなことは、お許しをいただきたく思います。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 住宅促進条例のPR、太陽光もつきますよと、あちこち機会のあるたびに説明させていただきたいのですけども、時期的にそんなに難しい内容かなと思いますけども、もう一度、すみませんけど、よろしくお願ひいたします。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤町長。

町長(佐藤 均君) 財政が非常に厳しい状況でございますので、その辺は財政課のほうから答弁をさせます。

議長(山本 陽一郎君) 藤井総務部長。

総務部長(藤井 浩二君) お答えを申し上げます。

今現在、若者定住促進条例で住宅を建てていただきますと、その一部として補助金を出させていただき条例を通させていただいて、本年PRをしておるところでございます。

近隣の市町の状況につきましては、四日市市、伊勢市、松阪市、今おっしゃいました川越町等々が、住宅建設にあわせてエコ給湯とか、また太陽光発電を採用された場合の補助金として、既に要綱を設置されて動いておるところもたくさんございますので、私どもは住宅促進とあわせた形で、何とか太陽光発電の導入とか、エコ給湯の導入をしてもらった場合に上乘せをしていけないかということ町長から指示をいただいておりますので、その辺をあわせて、どういう施策が一番いいのかというのを、原課、まちづくり課でございますが、そことも相談をしながら、許される範囲で要綱設定を図ってまいりたいと思っておりますので、どうかご理解賜りたいと存じます。

以上でございます。

議長(山本 陽一郎君) 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 住宅促進条例とあわせてやる。できたら4月からということで理解したらよろしいですね。新規の住宅促進条例から聞こえたんですけど、もう一度お願ひします。

議長(山本 陽一郎君) 藤井総務部長。

総務部長(藤井 浩二君) 今現在、住宅促進条例をつくりまして、スタートをさせていただいて、まだ4月から若干でございます。こういう状況も見るのと同時に、またさらに転入していただく方をどうやってしたらいいのかというところで、もうひとつ魅力をつけたいというふうな施策でございますので、本年4月からさかのぼるとか、来年4月からスタートするというような具体的な案は持ってございませんので、どうかご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議長(山本 陽一郎君) 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 期待しておりますので、ぜひ検討をお願い申し上げます。

それでは最後になりますけども、地域福祉計画について、要旨が短いんですけど、そのまま質問させていただきます。

高齢者の孤立化を防ぐ地域住民の見守り活動など、方針を定めた町福祉計画の基本的な内容を生活福祉部長に伺います。

議長（山本 陽一郎君） 岩田利弘生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 伊藤議員の地域福祉計画についてのご質問にお答え申し上げます。

同様の質問を藤田議員からいただき、答弁させていただいておりますが、高齢者にかかわることを主に答弁させていただきたいと思っております。

地域福祉計画の策定に当たっては、老人クラブや各地域団体に、福祉に関するアンケートを行い、福祉のまちづくりや福祉サービス、地域とのかかわりやボランティア等について調査を行いました。

その調査をもとに、高齢者世帯や単身の高齢者の方などが地域でのかかわりを持ち、地域の支え合いの中で、尊厳を持って、自分らしい生活が送れるような地域社会をつくることを目的に計画策定いたしております。

取り組み内容を申し上げますと、認知症サポーターの養成、介護予防教室の開催、老人クラブへの支援、元気老人サロン事業の推進、シニアカレッジの充実、ふれあい型配食サービス事業、愛の一声サービス事業、権利擁護事業、高齢者見守りネットワークの推進など、展開させていただいております。

この事業は行政だけで行えるものではなく、地域の皆さんや民生委員・児童委員の方々、東員町社会福祉協議会やボランティア団体、NPO法人などの皆さんとともに取り組むことによりまして、一層の充実を図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 昨日、同僚議員が質問しましたけども、地域福祉計画については、ないと私は考えますけども、そういう理解でよろしいですかね。もう一度。昨日のやりとりの中では、東員町は、この計画はないんだらうなという印象を受けたもので。

議長（山本 陽一郎君） 岩田生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） お答え申し上げます。

東員町の地域福祉計画につきましては、平成16年につくりまして、平成20年度までの計画でございまして、そのまま今現在も計画を継続してございます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） ありがとうございます。



一番初めは8月19日の新聞で、高齢者の孤立化を防ぐ地域住民の見守り活動などの地域福祉計画ということで、私は町については、いろんな活動をお願いして認めていただいておりますけど、この計画はないのと違うかなと思います。

厚生労働省のほうから平成19年8月、昨日の話ですけども、半数の市町村が計画を立ててないということで、低調であるということで、支援、働きかけの強化をお願いするというような文章が出てます。

それと話の内容で、僕も勘違いしているかわからないですけども、僕が一番気にするのは、行方不明とか、そんなことではなくて、年金の不正受給とか、それとあと、独居老人の支え合いというんですか、間違ったらごめんですよ、今は女性消防士の巡回、それと配食サービスの活動、民生委員、それからこの間立ち上げました地域ネットの会、その方たちの活動も本当にありがたいんですけども、1件ずつ訪問していただいておりますね。横のつながりというか、生活福祉部とのつながりというのは、連絡等々すぐ情報が入るような体制になっているかどうかというのを確認させていただきます。

議長（山本 陽一郎君） 岩田生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 現在、民生委員が地域の見守りということでしていただいて、独居の方とか、高齢者実態把握調査ということで回っていただいておりますし、常々見守りをしていただいて、何か状況があれば、すぐ連絡が町のほうへまいて、すぐ対応させていただくということになっております。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 高齢者の方で一人住まいというのが33名というふうに理解したらいいのですか。配食サービスの対象者が33名になっておりますけども、それは65歳以上の方という意味でよろしいですか。ちょっと伺います。

議長（山本 陽一郎君） 岩田生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 高齢者の独居の方は33名ではなくて、もっとたくさんいらっしゃると思います。現在、数は把握してないのですが。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 数は把握してないということは、だれがどこに住んでみえるということも全然わからないということですね。実態をわかってないということと同じですね。

議長（山本 陽一郎君） 岩田生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 失礼しました。把握してないというのは、今すぐ数字が出せないということで、さっき発言させていただきました。現在、高齢者世帯、65歳以上で409世帯ございまして、822名いらっしゃいます。独居老人につきましては310名いらっしゃいます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 2~3年前に悲しい事件がありましたけども、今後ともそういう事件のないように、しっかりフォローさせていただきたいと思いますので、ひとつよろしく願い申し上げます。

それともう1点、県のほうから、特養ホームの定員が510人増員するという、8月20日の新聞報道でございますけども、三重県人185万人でしたか、その中の東員町として、どれだけ希望者にこたえられるかと。多分今、30名前後の人が待機してみえると思うんですけど、その辺はいかがでしょう。

議長(山本 陽一郎君) 松下文丈長寿福祉課長。

長寿福祉課長(松下 文丈君) 養護老人ホームの定員の管理の関係でございますが、北勢圏域で、東員町であれば定員管理を行っております。ですから東員町で何床の割り当てがあるとか、そういうことではなくて、北勢圏域、例えば桑名、四日市管内を含めた定員が三重県内で何名という定数になろうかと思えます。

先ほど待機が30名おられるという方につきましても、今後それぞれの介護度に合わせた、緊急度に合わせたことで対応していきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長(山本 陽一郎君) 伊藤議員。

11番(伊藤 守一君) 毎回、特養については、私は要望させていただきましても、介護保険というのはみんな払ってます。町長も払ってます。私らも近いので、その時になって利用できないというのは、私はもうずっと思っておりますので、その辺、質問させていただきました。

今後も国の方針しか仕方ないですね。1万5,000人が待ってみえるというのは、三重県だけであるという新聞報道です。私も微力ですけど、機会あれば、こういうものをどんどん増やすようお願いしていきますので、町のほうも努力をお願いしたいと思いますので、ひとつよろしく願い申し上げます。

これで質問を終わります。